



## 不登校支援の始めの一步

9月26日(土)、志波姫この花さくや姫プラザで「第2回子育て講演会」を開催しました。

この講演会は、不登校の子どもへの支援や関わり方を一緒に考えることを目的に市が主催したものです。

講演では、栗原中央病院の宮野峻輔小児科医が講師を務め、子どもの心の病気の予防、楽しく過ごせる環境づくり、登校と自立の支援の重要性を訴え、市内外から来場した約50人が、ユーモアを交えた講演を真剣に聞き入りました。



## 栗駒山に神のじゅうたん現る

今年も9月下旬から10月上旬にかけて、栗駒山の紅葉が見頃を迎えました。

宮城、秋田、岩手の3県にまたがる栗駒山は、紅葉シーズンになると赤や黄、緑色の葉によって美しく彩られる様子から、神のじゅうたんとも呼ばれ全国から、多くの登山客が訪れます。

今年は、猛暑や台風の影響が少なく、例年に比べ特に色づきが良かったことから、平日の早朝でも駐車場が満車になるほどの盛況ぶりとなり、多くの登山客が一面の紅葉を楽しんでいました。



## 能面の世界に触れる

9月17日(木)から20日(日)にかけて、栗原文化会館で「第19回夢玄面友会能面展」が開催されました。

この展示会は、能面作家の菅原夢玄さん(一迫中町)が主宰する能面教室の生徒たちで構成する「夢玄面友会」が主催したものです。

会場には、菅原さんや生徒が制作した能面50点が展示され、訪れた人は、制作者から面の役割や見方などの説明を受けながら、迫力ある作品の数々にじっくりと見入っていました。



## 6カ月間死亡事故ゼロ達成

9月14日(月)、市は交通死亡事故ゼロ6カ月を達成したことから、県警察本部から讃辞が贈られました。

伝達式で讃辞を受け取った佐藤智市長は「今後も安全安心な街づくりのため、死亡事故撲滅に取り組んでいく」と述べ、交通安全への決意を新たにしました。

市は引き続き、関係団体や栗原警察署と連携し、交通安全の啓発活動を通じて、ルールとマナーを守ることを広く呼びかけていきます。



## 祈りをテーマに万葉祭開催

10月3日(土)、一迫地区のレストランと宿泊施設を兼ねた風の沢で、「第19回くりはら万葉祭〜土と火のまつり〜」が開催されました。

この催しは、NPO法人風の沢とタラチネの会が主催したもので、自然との共生や祈りなどをテーマに開催されました。

祭りでは、勇壮に舞うハツ鹿踊りや来場者が持ち寄った食材で作る料理の振る舞いが行われた他、炎に赤く染まる土製のモニュメントが会場を照らし、会場は幻想的な雰囲気に包まれました。



## 中学生が公式戦デビュー

9月26日(土)と27日(日)、市内各地で「栗原市中学校新人体育大会」を開催しました。

この大会は、中学1年生と2年生にとって公式戦デビューを飾るもので、日頃の練習の成果を競い合い、9競技で試合が行われました。

このうち、サッカー競技には、市内中学校から5チームが出場して10試合が行われ、素早いドリブルや鋭いシュートが放たれる白熱した試合展開に、多くの観客が温かい声援を送り、選手たちを力強く後押ししていました。



## 笑顔あふれる秋マルシェ

9月20日(日)、若柳ドリーム・パルで「第2回秋のマルシェ」が開催されました。

この催しは、わくわくマルシェ実行委員会が主催したもので、出店を通じて店舗の認知度を向上させ、人と人とのつながりを生み出すことを目的に、春と秋に開催されています。

マルシェでは、ハンドメイド雑貨やキッチンカーなど58店舗が出店した他、フラダンスショーなども披露され、来場した約2千人が、秋空の下、思い思いに買い物を楽しんでいました。



## 全国から往年の名車が集結

9月20日(日)、栗駒地区の六日町通り商店街で「みんなであわせになるまつり2026」が開催されました。

この催しは、昭和の雰囲気が残る商店街に、往年の名車などを展示し、昔の雰囲気を感じてもらおうと開催されたものです。

祭りでは、全国から昔懐かしい車87台やボンネットバス7台が集結し、市内外から訪れた約1万人の来場者は、昭和にタイムスリップしたような懐かしい雰囲気を楽しんでいました。